

平成28年度大学図書館職員短期研修

学術情報リテラシー教育の現状： 東京大学の活動から

平成28年10月4日（京都会場） / 11月29日（東京会場）

東京大学 情報システム部情報基盤課

学術情報チーム 須賀井理香

目次

- 大学での学術情報リテラシー教育
- 東京大学の講習会さまざま
- 各種広報、情報発信
- リテラシー用サイト運営・資料作成
- 学術情報リテラシー教育のこれから

大学での学術情報リテラシー教育

近年の動向

科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会
“学修環境充実のための学術情報基盤の
整備について(審議まとめ)” 平成25年8月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm

- 図書館を含む「学術情報基盤」が
- 学修環境充実にどのように関わっていくか
- コンテンツ・学習空間(場所)・人的支援(人材・運営)

方向性

大学での学術情報リテラシー教育

近年の動向

学術情報リテラシー教育担当者研修 講義資料/成果物
“学術情報リテラシー教育の理論と動向”
(野末 俊比古)

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/literacy/result.html>

理論

- 情報リテラシーとは
情報を主体的に使いこなす能力である
- 「中身」はコミュニティに依存する
(大学・学部・学科などによる違いがある)

目指す利用者像は異なる

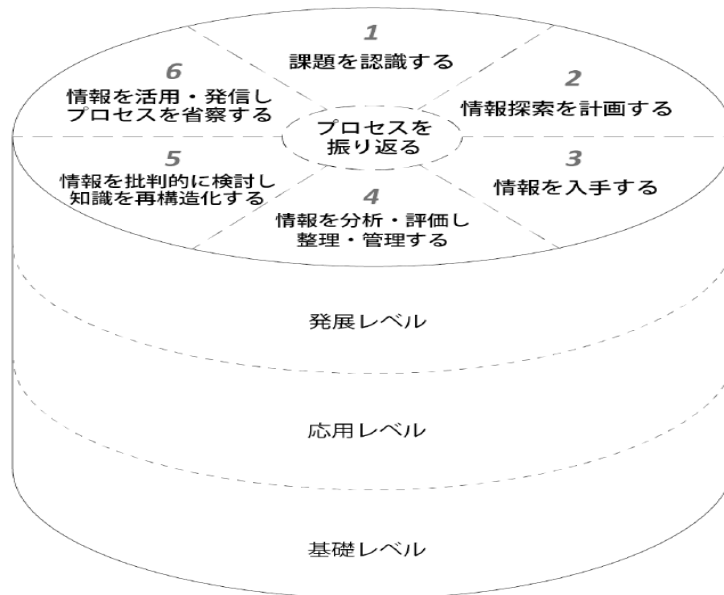
大学での学術情報リテラシー教育

近年の動向

国立大学図書館協会 教育学習支援検討特別委員会
 “高等教育のための
 情報リテラシー基準 2015年版”

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/>

実践



課題解決のための情報活用行動
 プロセスを6つの場面に分け、
 高等教育において情報リテラシーを
 身につけた学習者のあるべき姿を
 提示するもの ～第5章より

大学での学術情報リテラシー教育

近年の動向

国公立大学図書館協力委員会
研修のあり方に関するワーキンググループ
“大学図書館職員の専門性と専門研修のあり方について(報告書)” 平成27年12月

http://www.janul.jp/j/documents/coop/training_wg_report_1512.pdf

- 「学習・教育支援」、「研究支援」、「学術情報基盤構築」の3つを、大学図書館職員の専門性の主要カテゴリと位置づけ

自分を
磨く

東京大学の学術情報リテラシー 教育活動

東京大学について

構成員

- 教職員 7,865名
特定有期雇用教職員 2,736名
計10,601名
- 学部生 14,116名
大学院生 13,957名
計28,073名

約4割が他大学から。約1割が社会人

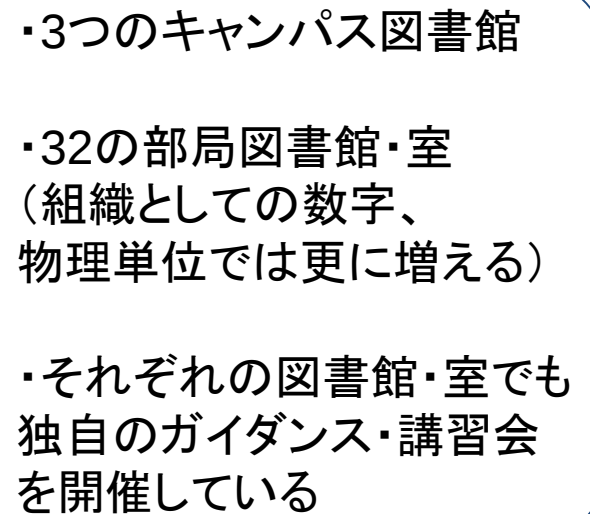
東京大学の学術情報リテラシー 教育活動

東京大学について

組織

- 10学部、15研究科(院)、11附置研究所、13全学センター、その他総長・総長室直轄の各機構等
- 他に各部局(学部/研究科、研究所等)附属施設多数

東京大学 附属図書館について



東京大学の講習会さまざま

春と秋がハイシーズン

種類	回数	受講者数	備考
テーマ別ガイダンス [うち夜間ガイダンス]	47 [夜7]	403 [夜60]	1つのテーマについて検索実習を 交え解説、学内オープン
オーダーメイド講習会	22	361	教員・学生等からの依頼内容に 合わせて実施
図書館・室等との 共催講習会	58	582	図書館利用案内と併せて実施、 特定主題分野の講習会等
秘書さんのための はじめての論文の探し方	2	32	研究補助従事者を主対象として 実施
留学生向けガイダンス (中・韓)	3	44	留学生向けに留学生等の講師が 担当
外部講師による講習会	20	199	専門性の高いデータベースに ついて提供元から講師を招聘
合 計	152	1621	※平成27年度実績

東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンス（学内オープン）

- 場所：総合図書館（本郷キャンパス）

- 対象者：学内者（誰でも）

学内オープンなので

初心者から経験者まで聞けるものに

- 内容：

いくつかのツールを組み合わせで
一連の流れを実習してみることで
実際に使用する場面を
自分で想定することができる

東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンスの例：

⇒「論文準備ここからスタート！」

CiNii Articles + Web of Science + RefWorks

文献検索＋本文入手＋文献管理ツール

- 分野を絞る／絞らないで扱うツール・キーワードを変える
- 関連する図書を置いておく

東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンスの例:

⇒ 昼休みミニ講習 (20～30分)

はじめよう！ RefWorks または Mendeley

比べる！ 検索ツール

本文入手大作戦

就活の味方eol

東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンスの例:

⇒完全予約制 夜間ガイダンス

昼間のコースと(ほぼ)同じ内容を
18:45スタートで60分

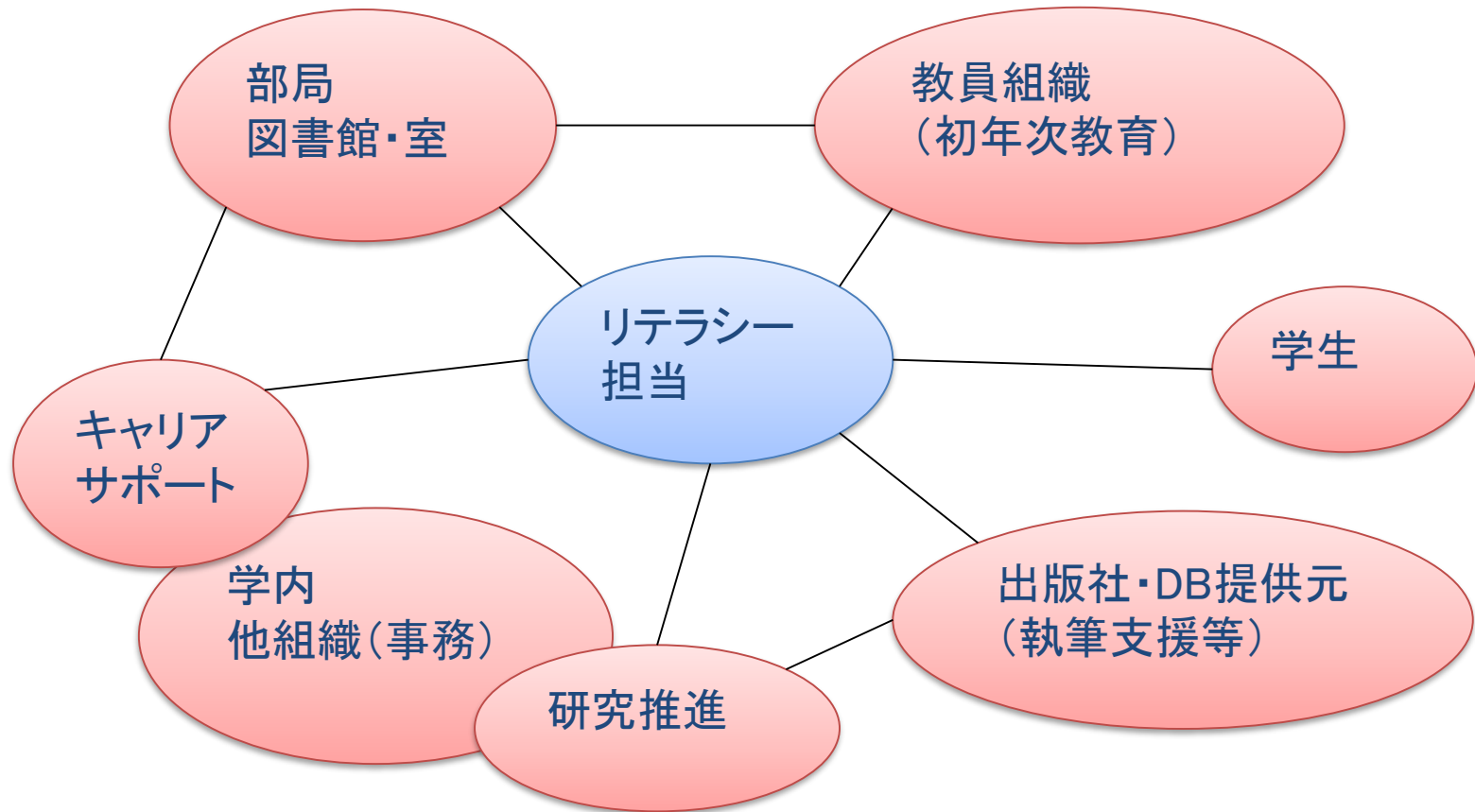
⇒卒業してからの文献検索・文献管理

卒業・修了予定者を対象に

無料で使えるツール等を紹介

東京大学の講習会さまざま

～誰と組むか～



• オーダーメイド講習会

➤ 要望を確認、講習内容等のすり合わせ

- 会場、時間、参加者数、実習／講義形式
- 受講対象者の層は？ 求めるレベルは？
- 分野の近い講習会教材を例示
- 専門性の高いDB提供元の講師仲介

年度末に、次年度の
予定を照会

⇒ オーダーメイド
講習会の定例化

教員の口コミに
よる新規発注

⇒ 1つのオーダー
が次のオーダーへ

➤ オリジナル教材の作成

- 研究室、関連部局サイトから例題用キーワードを拾う
- 部局図書館のサイトからシラバス掲載図書を調べる

東京大学の講習会さまざま

- 各図書館・室との共催講習会

- 共催部局との役割分担

- 講師、講師補助、広報、参加予約対応 etc.
- 部局図書館職員のスキルアップ

- 部局内での継続性を持たせる

年度末に、次年度の予定を照会

⇒ 共催講習会の定例化・スキルの継承

テキスト・台本の提供
⇒ 自前で講習できる図書館も！

東京大学の講習会さまざま

- 各図書館・室との共催講習会
 - 他キャンパス利用者への対応
 - 地理的ハンディキャップの解消
(駒場、駒場Ⅱ、柏、白金…)
 - 特定主題分野の講習会

東京大学の講習会さまざま

- 図書館・室との共催講習会の例:

- ⇒ 医学図書館との共催

医学系のツールを実習形式で

勤務時間終了後、夕方からの開催も希望（17:30～）

直接地元のユーザと
触れ合うことで
ニーズを探る

- ⇒ 工学・情報理工学図書館との共催

工学系を含むツール・文献管理ツールを講義形式で

昼休み、閲覧室の壁を利用

東京大学の講習会さまざま

～初年次教育～

平成26年度まで

- 基礎演習（文系の必修科目）
担当教員の希望により
 - 駒場図書館ガイダンス＋簡易な検索実習
（他に自由参加の駒場図ガイダンスもあり）
 - 学術情報リテラシー担当による 検索実習

平成27年度から

- 初年次ゼミナール 文科／理科（必修科目）

東京大学の講習会さまざま

～初年次教育～

・初年次ゼミナール文科

2回目の授業(105分)で

検索実習60分
(駒場図書館＋
学術情報リテラシー担当)

アカデミックマナーの
講義40分 (教員)

➤ アンケート回答数: 12コマ 1255名(H28)

東京大学の講習会さまざま

～初年次教育～

- 初年次ゼミナール 文科

初年次ゼミナール文科のための
文献検索ワークショップ

2016.4

駒場図書館 & 本部情報基盤課学術情報リテラシー担当

ここで質問です。

『地域研究』14巻1号は、どうなってしまったのでしょうか。

1. 図書館の人が捨ててしまった
2. 他の学生が借りている
- ③ 3. 他の場所にある

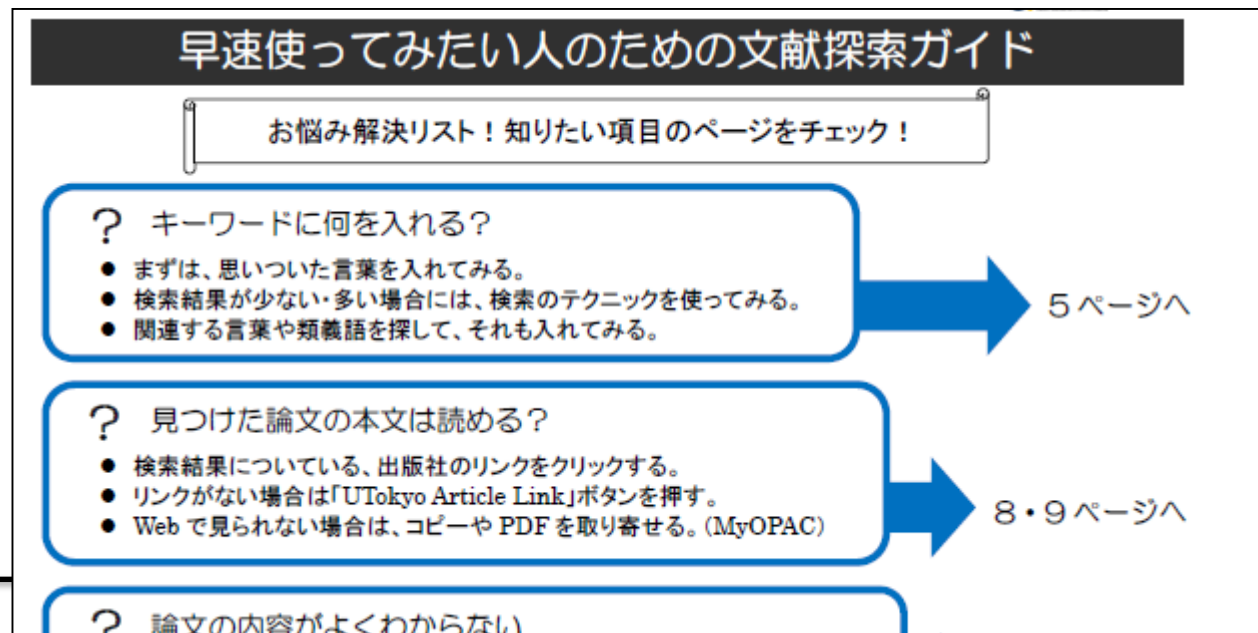


東京大学の講習会さまざま

～初年次教育～

・初年次ゼミナール 理科

- 教員が担当する共通授業の内容作成に参加
- 少人数クラスに分かれて授業を行うため配布できるテキストを作成



東京大学の講習会さまざま

～執筆支援～

- 「英語論文はこわくない」セミナー
- 執筆支援のためのセミナー

H28年度：SAGE・Elsevierと協力（予定）

H27年度：IOP（英国物理学会）と協力

H25/H26は東大TV
(<http://todai.tv>) で公開

H26年度：Elsevier・研究推進企画課と協力

H25年度：BioMedCentral（医学系オープンアクセス出版社）
と協力

東京大学の講習会さまざま

～研究企画・経営への視点～

- 「研究戦略：研究力の測り方、伸ばし方」

分析ツール SciVal / Pure講習会

分析ツール ESI / InCites講習会

研究パフォーマンス分析ツール

研究者自身または研究企画を行う人が

現在の状況を把握して今後の戦略を立てる

- 提供元Elsevier, トムソンロイターから講師を招聘
- URA(リサーチアドミニストレーター)も多数参加

各種広報、情報発信

- 内容

- 講習会開催案内

- 共催講習会は部局内MLで集客アップ
 - 学内オープンでも特定分野は関連部局へ個別通知

- 新規サービス、メンテナンス情報等

- 手段

- GACoS、東大ポータルへの掲載、Twitterの利用

- メールマガジン「Litetopi」

- ポスター・チラシ

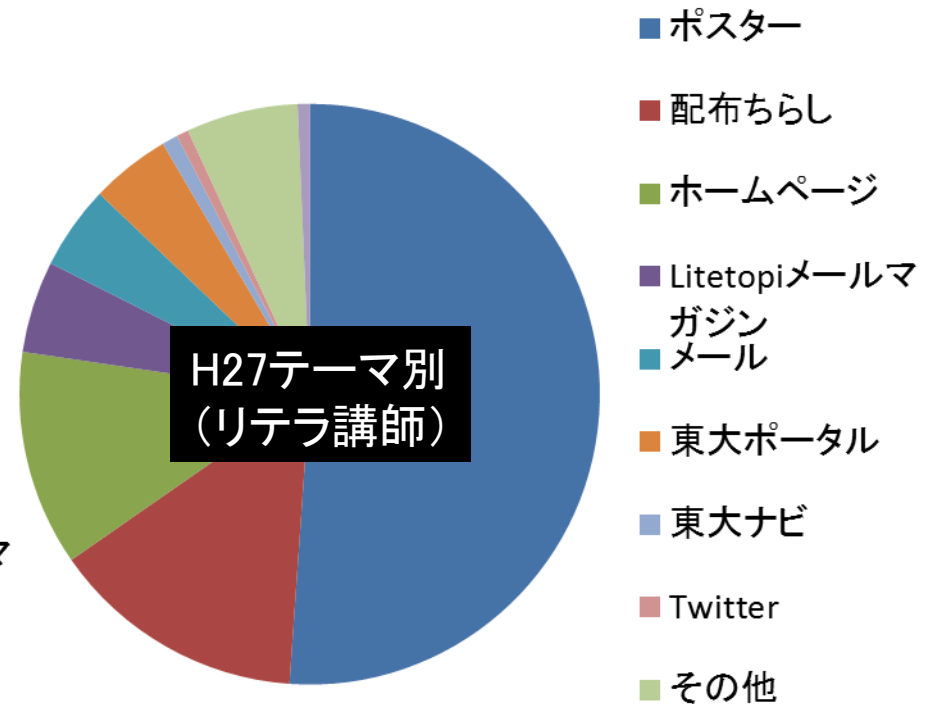
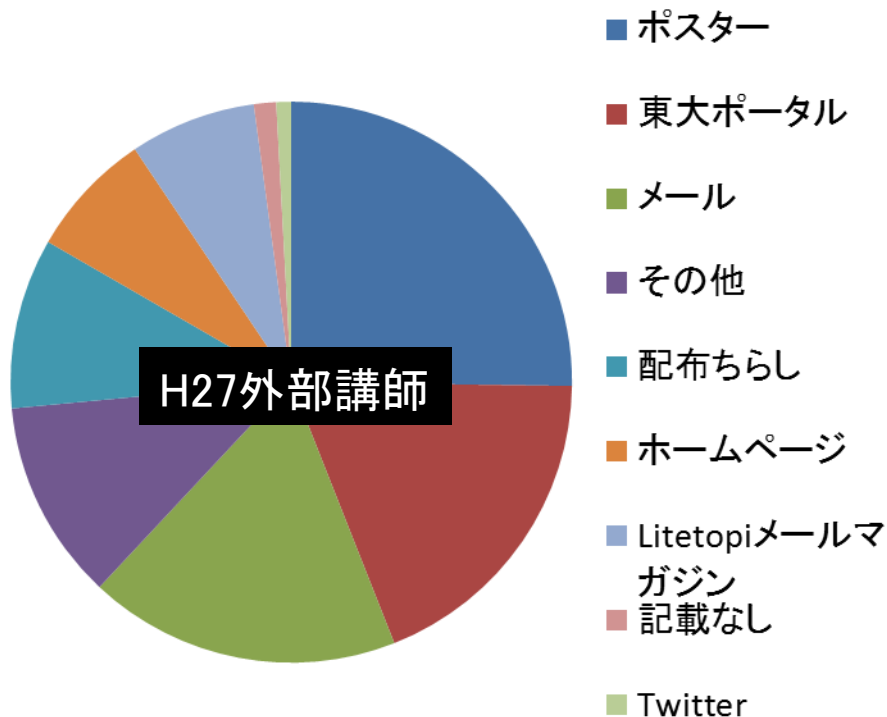
講習会により
有効な広報手段は異なる
⇒ターゲットを考える

各種広報、情報発信

- フィードバック
ーつまりアンケート

統計は学外からも見られます

Webでのアンケート
実施状況統計の共有



リテラシー用サイト運営・資料作成

- 情報探索ポータルサイト「GACoS」(ガコス)
(Gateway to Academic Contents System)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/index.html>

- 日・英(一部日のみ)



- レポート・論文支援ブック:ここから始めよう

- プリント版は日・英・中・韓
- Web版は日・英
- Web版に最新・詳細情報を掲載

ツールの紹介はGACoSを
詳しい情報はWeb版を
見てもらうように誘導

考えるべきことはたくさんあります

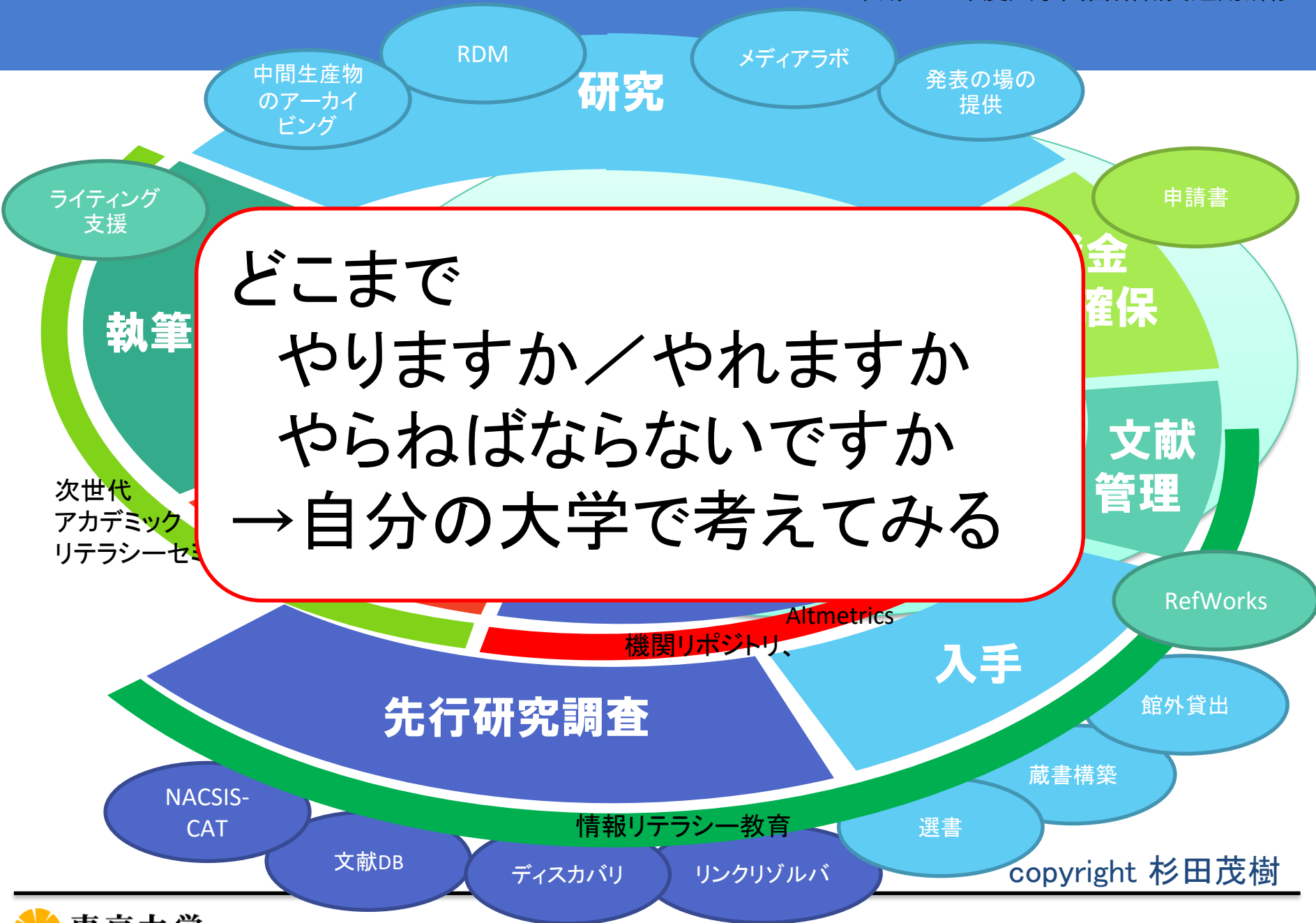
- 何でも「ググる」時代の情報探索
ウェブ版のフルテキストで満足、紙資料を読む発想がない
検索でヒットしないものは、存在していない
- 学生も教員も時間がない
- 国際化への対応
- 社会人学生への対応

ミニ講座でスキマ時間活用
夜間ガイダンスの開催
英語による講習会の開催
教材のWeb掲載

考えるべきことはたくさんあります

- 教育する立場としての知識
図書館のことだけでは教員と話ができません
- 「人もお金も足りないです」
全体をカバーするのは難しい

図書館職員だからこそ話せることもある
他部署を巻き込む
ハブになる



おわりに

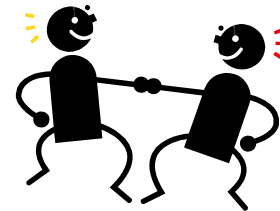
- 図書館だけで完結しない

⇒教育・研究活動との連携、大学運営の支援

- ふさわしい／できる学術情報リテラシー教育はそれぞれ異なる

⇒「東京大学とウチは違う」で終わらせない！

⇒それぞれの組織の強みを考える



東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チーム[学術情報リテラシー担当]